以下の資料の修正
〇平成29年7月28日開催
第28回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、平成29年度第4回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催） 資料3
〇平成29年8月28日開催
第29回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、平成29年度第5回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催） 資料12

資料19

# HPVワクチン接種後に多様な症状を生じた患者のうち 治療効果のあった症例の報告 （概要）

慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
研究代表者：牛田 享宏　愛知医科大学学際的痛みセンター教授

## HPVワクチン接種後に多様な症状を生じた患者に対する対応 －本日の事例概要－

HPVワクチン接種後に症状が生じて牛田班所属医療機関を受診した方で、症状の軽快が得られたケースについて、診察した医師から症状、経過、診療方針、転帰等について報告。

【診療方針】

- 患者、家族への十分な説明と指導：ワクチン接種と症状との因果関係を追及するのではなく、生活パターンの改善・体づくりが必須であることや 日常生活のリズムを整えて、痛みがあってもできることを増やしていくことを指導
- 学校生活の継続を第一に、部活も含め普通に動かすことを推奨
- 症状に応じて投薬やその他の治療も併せて行うが、治療による副作用など長期的影響などを考慮してより侵襲性の少ない方法を補助的な治療手段として進める
- 必要に応じて診療チームが集学的な連携を行って診療にあたる

【3名の方の概要】

- 接種から発症までの期間　：　接種直後～接種後約1ヵ月
- 発症から牛田班所属医療機関を受診するまでの期間：約9か月～約3年
- 牛田班所属医療機関の初診後軽快※までの期間：約半年～約9ヵ月
- 事例概要

A 耳鳴り，嘔気，頭痛，まぶしさ，立ちくらみ，起床困難，食欲低下　等により通学できない時期があった。
B 両肩、股関節、膝関節等の痛み等あり。
C 食欲低下，腹痛，思考力の低下，音過敏，後頚部の痛み，倦怠感，動悸，不眠 等により通学できない時期があった。

※「軽快の判断基準：　初診時と比べて、
・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった
等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

# HPVワクチン接種後の多様な症状に対する牛田班での認知行動療法的な考え方を取り入れた集学的診療（治療）について

## 1. 集学的な診療とは、

各専門の医師、看護師、理学療法士、臨床心理士などがカンファレンスなどを通じて密に連携して必要に応じて多角的に専門的なアプローチを駆使して行うチーム医療。

難治性慢性痛で体の障害を来している患者さんに対しては、いろいろな専門家が病態を分析し、連携して単一の治療手段にこだわらず複数の治療手段を使うなどし解決を目指す。

## 2. 認知行動療法<u>的</u>アプローチとは、

慢性痛の原因（身体）に対する治療に加え、慢性痛と心理社会的要因は相互に作用していることから開発された治療アプローチ。

認知行動療法の考え方を参考にしているが、うつ病で用いられている認知行動療法とは異なる。

当研究班においては原因にこだわらず、物事の受け取り方や考え方である「認知」に働きかけて物事の捉え方を改善し、身体つくりを行いつつ日常生活でできることを増やしていくことを目指すものである。しばしば必要な投薬による治療など他の手段も併用する。

---

（参考）

**慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究班（牛田班）**

－慢性の痛みとHPVワクチン接種後の痛みについての対応－　　敬称略

**<u>牛田班所属医療機関　及び　対応者</u>**

| | |
|---|---|
| ● 愛知医科大学病院 | 牛田享宏 ほか |
| ● 札幌医科大学付属病院 | 山下敏彦，村上孝徳 |
| ● 山形済生病院 | 伊藤友一 |
| ● 福島県立医科大学付属病院 | 矢吹省司　ほか |
| ● 獨協医科大学病院 | 山口重樹，木村嘉之 |
| ● 東京慈恵会医科大学付属病院 | 八反丸善康　ほか |
| ● 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 井関雅子　ほか |
| ● 日本大学医学部附属板橋病院 | 加藤実 |
| ● 慶應義塾大学病院 | 小杉志都子 |
| ● 横浜市立大学附属市民総合医療センター | 北原雅樹 |
| ● 新潟大学医歯学総合病院 | 木村慎二 |
| ● 富山大学附属病院 | 川口善治 |
| ● 名古屋市立大学病院 | 杉浦健之 |
| ● 三重大学病院 | 笠井裕一 |
| ● 滋賀医科大学附属病院 | 福井聖　ほか |
| ● 大阪大学医学部付属病院 | 柴田政彦 |
| ● 岡山大学病院 | 西田圭一郎，鉄永倫子 |
| ● 山口大学医学部附属病院 | 田口敏彦、鈴木秀典　ほか |
| ● 愛媛大学医学部附属病院 | 檜垣暢宏 |
| ● 高知大学医学部附属病院 | 川崎元敬　ほか |
| ● 九州大学病院 | 細井昌子，塩川浩輝 |
| ● 佐賀大学医学部附属病院 | 門司晃，平川奈緒美，園畑素樹 |
| ● 千葉大学 | 大鳥精司 |

およびその他の研究協力者の先生方

牛田班所属医療機関の連絡先等の詳細は
以下厚生労働省ホームページ参照
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/dl/medical_institution.pdf

## HPVワクチン接種後の症状に対する認知行動療法的アプローチの効果について

厚生労働科学研究事業　慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究班
（研究代表者：愛知医科大学　牛田享宏）所属医療機関における集計（平成28年11月末現在）

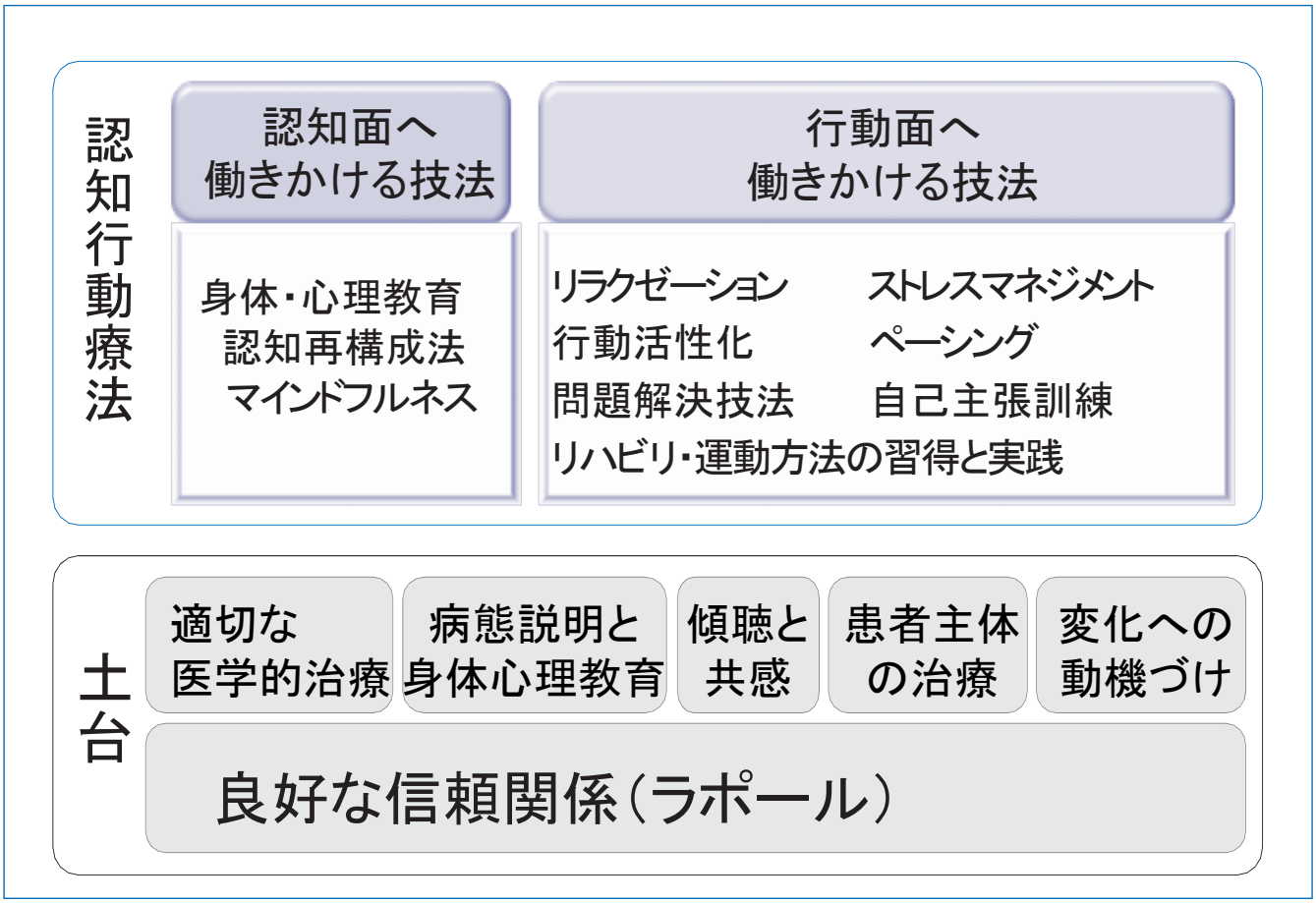
### HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例（n＝244）

| 受診したもの | フォロー出来たもの | フォロー出来たもの156名の内訳 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 痛みが消失又は軽快※ | 痛み不変 | 痛み悪化 |
| 244 | 156（63.9%） | 115（73.7%） | 32（20.5%） | 9（5.8%） |

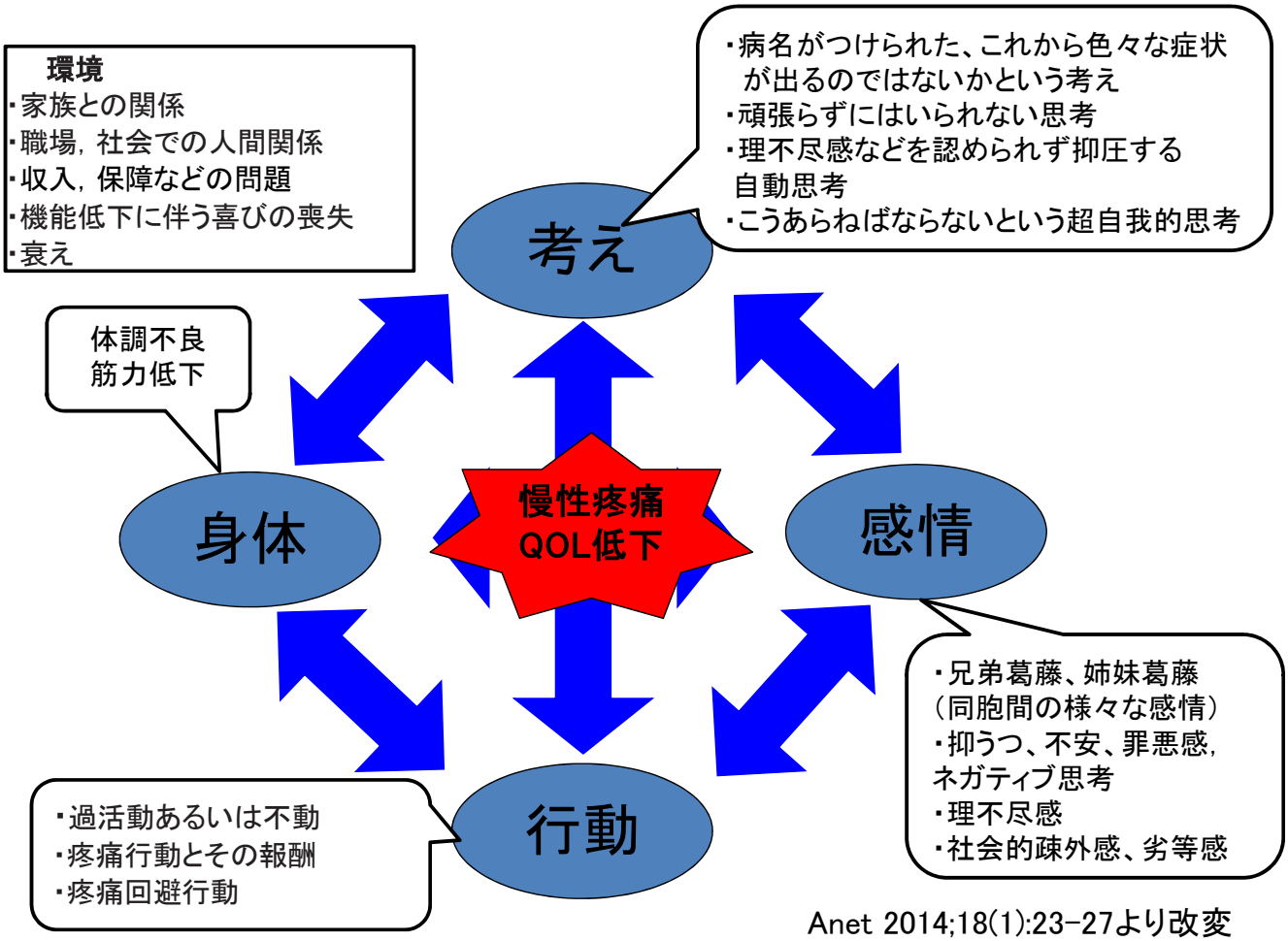
### 関節炎など他の要因が明らかであり HPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例（n＝100）

| 受診したもの | フォロー出来たもの | フォロー出来たもの54名の内訳 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 痛みが消失又は軽快※ | 痛み不変 | 痛み悪化 |
| 100 | 54（54.0%） | 37（68.5%） | 14（25.9%） | 3（5.6%） |

※「軽快の判断基準：　初診時と比べて、
・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった
等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない




Anet 2014;18(1):23-27より改変




Anet 2014;18(1):23-27より改変

---

原因を調べて治してほしい
（原因が判れば、そこを治せるので改善するという考え）

⇩

**症状の分析**
**既知の病期の検査**

⇨ 若年性リウマチやその他の疾患（治療）

**明確な病因が不明**

⇩

明確な病態はないので“痛くても動けるのが良い”という考え方・対応に変える

後に分かってくる既知の疾患の検査は定期的に行う

**・神の手からの脱却（医療者への全面的な依存をやめる＝主役は患者である）**
**・骨が折れたり、腫瘍が有るとかでなければ、動いていい。**
**・毎日痛いところが変わっていくような場合は、決定的に悪いわけではない**
**・動かしていなかった人が急に動かせば痛くなるのは当前**
**どのくらいなら大丈夫かをセルフマネジメント：体つくり、記録をつけ自信につなげる**

以下の資料の修正
〇平成29年8月28日開催
第29回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、平成29年度第5回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催） 資料13

# HPVワクチン接種後に多様な症状を生じた患者本人からの医療体制に関するご意見

研修会への参加に承諾をいただいていた方
（今回は、開催場所の都合によりご協力いただかなかった方）

〇 症状が重いときは、学校を休まなければいけないことも多かったが、現在では、症状は一部残っているものの、ほとんど気にならない程度になり、学校にも休まず通えている。

〇 当初は、「身体面」の自覚症状自体を認めてもらえず、その診断書を書いてもらえなかった。
学校やその他に自分の状況を伝える際に、医師による診断書があると、周囲に理解をしてもらいやすくなるため「身体面」「精神面」各々の症状自体を否定せず、現状の診断書を書いて欲しかった。

〇 大学病院（協力医療機関）までは、都道府県内であっても遠いので、もっと近くの病院で診てもらえるような体制にしてほしい。また、18歳未満の思春期の患者が受診しやすい体制も検討してほしい。

〇 治った方・まだ治っていない方各々の経過、訴えていた症状やその期間などについて積極的に情報提供してほしい。